

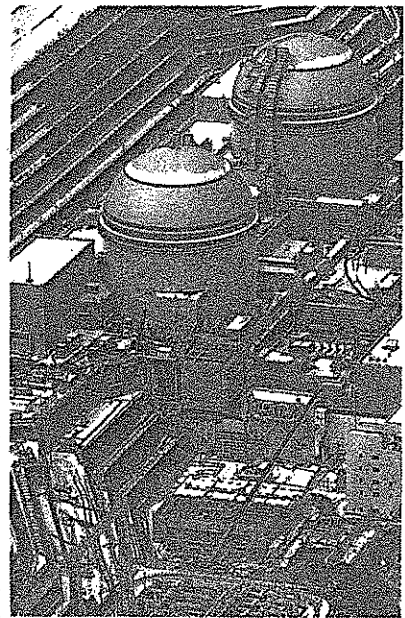
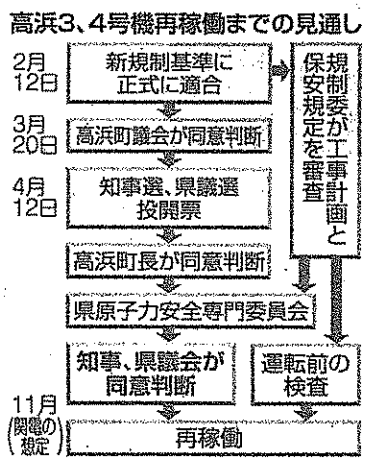
3/19
J-News

激突 知事選 2015

◇上◇

二十六日告示、四月十二日投開票の知事選は、四選を目指す無所属で現職の西川一誠氏(金)と、共産新人の金元幸枝氏(金)による一騎打ちとなる公算が大きい。原発、北陸新幹線、人口減少という県政の課題をどう捉え、取り組んでいくのか。両氏の主張をたどり、争点を追った。

「原子力の重要性に對す 合という大きなヤマ場を越える国民理解は十分とはいえず、焦点は「地元同意」にず、政府がしっかりと説明、移った。だが、西川氏は慎重な姿勢を崩さず、判断の前提となる五条件を政府に適合した関西電力高浜原発3、4号機(高浜町)について、直後に始まった県議会定例会の提案理由説明で、知事の西川一誠氏は従来の主張を繰り返した。再稼働に向けて新基準適



関西電力高浜原発の3号機(左)、4号機=2月、高浜町で、本社へ「まなづる」から

高浜原発 西川氏 地元同意に条件 金元氏 反対姿勢明確に

「確認する」としており、訓にした事故体制の強化、原発の長期停止で低迷する嶺南地方の経済対策という内容だ。

さらに、原子力規制委員会の審査状況も

「確認する」としており、訓にした事故体制の強化、原発の長期停止で低迷する嶺南地方の経済対策という内容だ。

一方、共産党県書記長の金元幸枝氏は出馬会見で、西川氏との対決姿勢を明確うな状況は許せない」

「現場の光景は時間を経ても変わらず、いまだ十万人の人が避難し、毎日のように汚染水が漏れ続ける。事故は終わっていない」

再稼働をめぐる責任論も浮上している。規制委の田中俊一委員長は新基準に適合してもなお「リスクゼロではない」と発言し、政府は「規制委が安全と判断した原発は再稼働す

福島の現場に足を運び、その思いを強くしている。

「現場の光景は時間を経ても変わらず、いまだ十万人の人が避難し、毎日のように汚染水が漏れ続ける。事故は終わっていない」

再稼働をめぐる責任論も浮上している。規制委の田中俊一委員長は新基準に適合してもなお「リスクゼロではない」と発言し、政府は「規制委が安全と判断した原発は再稼働す

「金元氏も「判断することを通じて」と政府や規制委に対する指摘は同じ。ただ、同じ矛先を西川氏にも向ける。理由は二つ。高浜再稼働に反対する県内外の二十万五千人分の署名を、西川氏本人が受け取る機会を設けないこと。もう一つは、原発の安全性や避難計画などの住民説明会を県主催で開かない点だ。

西川氏は開催の必要性について「一義的に市町が判断する事柄」との見解を示すが、金元氏は「立地市町(再稼働の)判断を押し付けているようだ」と疑問を投げ掛けている。